

37 安土桃山③ 秀吉の外交

Ⅰ秀吉の国民統合その2

思想も宗教もない国民を統合する方法の二つ目は、パフォーマンス政治だ。秀吉の派手好みは単なる成金趣味ではなくて、さしたる出自や文化資本（この人はすごい、と思わせる知性や教養）のない彼が大衆を惹きつけるための戦略的手段だったのだが、しかしベタベタな演出はすぐに陳腐化しますから、もっと派手なことを、もっと前例のないことを、もっとスケール壮大でガツン！と来ることを……と「やり過ぎ」な企画が過熱するうちに最後は朝鮮出兵まで行ってしまった。

『中国化する日本』與那覇潤著 83頁

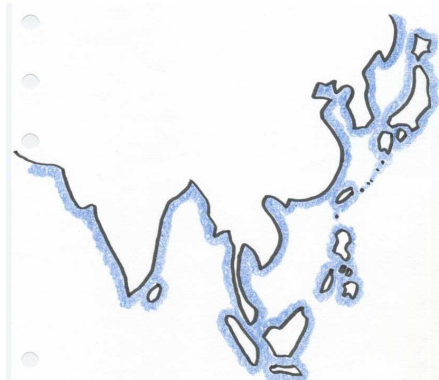
1591 → **身分統制令**を出す（武家奉公人・百姓・町人の身分移動を禁じた）。

秀吉、朝鮮征討のため九州の諸大名に**名護屋城**（肥前国）を築城。

Ⅱ史料研究 **身分統制令** 「小早川文書」

一、奉公人、侍、中間（＝侍と小者の間）、小者（＝身分の低い武家奉公人）あらし子（＝荒仕事をする者）に至る迄、去る七月奥州江御出勢（＝奥州平定のための出兵）より以後、新儀に町人百姓に成り候者之在れば、其の一町一在所御成敗を加へらるべき事。

1592 * **文永**の役起こる。



朝鮮に対し、入貢と明への先導を求めたのを拒否されて起こる。

・**ゴア**のポルトガル政庁、**マニラ**のスペイン政庁、**高山国**（台湾）

などに服属を要求。新しい国際秩序を構築しようとした。

朝鮮は朝鮮水軍の将**李舜臣**の亀甲船が活躍、明の援軍もあり苦戦、一時は明の沈惟敬と小西行長との間で講和が進むが、内容に秀吉が激怒し戦闘再開。

関白**豊臣秀次**が**人掃令**を出し、

全国の戸口調査を命じた。

朱印船貿易始まる。秀吉に始まり家光まで継続。

1595 秀次自害。秀吉に嫡男秀頼誕生し邪魔になる。

1596 * **サン・フェリペ号事件**起こる。

→土佐に漂着したスペイン船サン・フェリペ号を調査し、積み荷を没収して船をマニラに返した際に、船員が「スペインは宣教師を領土征服の手先としている」と失言。秀吉激怒し、フランシスコ会の宣教師・信徒**26**名を逮捕し、**長崎**で処刑した。これを**26 聖人殉教事件**という。

1597 後陽成天皇の命で、朝鮮伝来の活字印刷術による**慶長勅版**刊行。

* **慶長**の役起こる。

文禄の役に参加した武将たちの恩賞を求め、朝鮮領土の獲得を目的とした。

武将**加藤清正**・**小西行長**をトップに朝鮮侵攻を開始。秀吉は本陣を**肥前国名護屋城**に築いた。秀吉が病死し、慶長の役は終了する。

1600 オランダ船**リーフデ号**、豊後国臼杵に漂着。

航海長イギリス人の**ウィリアム＝アダムス**（＝三浦按針〔按針は航海士の意味〕）と航海士オランダ人の**ヤン＝ヨーステン**（＝耶楊子）は家康の外交顧問に。

Ⅲ夢と野望の名残

秀吉軍は朝鮮軍の首を日本に送りましたが、かさばりすぎるため、耳に変え、のちには鼻に変えました。兵たちが手柄を競って鼻そぎをした結果、虐殺された朝鮮人は数十万を数えたといえます。鼻や耳は塩漬けにされて日本に送られました。秀吉はそれを大仏殿の西方の現地地点に埋め、供養しました。それは自分の功績を、後世に残すためにほかなりませんでした。

『京都に強くなる 75 章』京都高等学校社会科研究会編 18 秀吉と朝鮮戦略

Ⅳ論述研究 豊臣秀吉が天下統一に向けてとった手法とは？ 東大 2009 第2問

豊臣秀吉が戦乱の世をしずめ、全国統一を実現したことにかかわる次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A～Cに答えなさい。

(1) 1585年、秀吉は九州地方の大名島津氏に、次のような趣旨の文書を送った。「勅命に基づいて書き送る。九州ではいまだに戦乱が続いているのは良くないことである。国や郡の境目争いについては、双方の言い分を聴取して、追って決定する。まず敵も味方も戦いをやめよというのが勅慮である。もしこれに応じなければ、直ちに成敗するであろう。」

(2) 1586年、島津氏は、「関白殿から戦いをやめるように言われたが、境を接する大友氏から攻撃を受けているので、それなりの防戦をせざるを得ない」と回答した。

(3) 1587年、島津氏は秀吉の攻撃を受けたが、まもなく降伏した。一方、中国地方の大名毛利氏は、早くから秀吉に協力した。秀吉は島津氏に薩摩国・大隅国などを、毛利氏に安芸国・備後国・石見国などを、それぞれ領地として与えた。

(4) 1592年に始まる朝鮮出兵では、島津氏も毛利氏も、与えられた領地に応じた軍勢を出すように命じられた。

設問

A 秀吉は、戦乱の原因をどのようにとらえ、その解決のためにどのような方針でのごんだか。3行以内で述べなさい。

B 秀吉は、自身の命令を正当化するために、どのような地位と論理を用いたか。1行以内で述べなさい。

C 秀吉による全国統一には、鎌倉幕府以来の武士社会における結合の原理に基づく面

がある。秀吉はどのようにして諸大名を従えたか。2行以内で述べなさい。

近世＝自力救済が否定される時代

中世＝一元的に全国を支配する権力はない。公武二元支配＝武家（幕府）と公家（朝廷）

惣無事令 → 秀吉が全国の支配者の立場から諸大名に対して戦闘の停止と領地確定の秀吉への委任を命じたもの。1585年島津氏の1587年の北条氏への武力討伐の根拠。このルーツは「今後俺様（戦国大名）が全部決める、だから家臣となったお前ら（国人）は私闘で決着をつけてはいけない」ということ。

1585年、惣無事令を正当化するために秀吉はまず、五摂家に知行を加増して取り入り、近衛前久の養子となって（名義上）関白の地位につく。そして関白として天皇から全国の支配権を委ねられているという論理で惣無事令を発する。秀吉は天下統一のため朝廷や天皇の権威を利用したのだ。同じ1585年家康と小牧・長久手の戦いで一戦を交え、和睦に終わったとはいえ、いずれ戦う運命にあった秀吉。1586年太政大臣を兼ねるとともに後陽成天皇から豊臣の姓を賜います。そして京都に造営した聚楽第への後陽成天皇の行幸を実現しました。秀吉は天皇を利用して、自らへの服従を誓わせたのです。

大名知行制＝封建的主従関係の回復

関白の名の下に惣無事令を発するというカードを手に入れたあと、秀吉の天下統一は事業は効率的になった。命令違反は武力をにおわせ、所領の安堵をちらつかせればいい。所領の安堵の際の基準は石高です。

全国の領主権を握る秀吉が、大名に対して石高を基準に知行地を給付し、大名がそれに見合った軍役を負担する。